

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|-------------------|
| 事業所番号 | 3890500436 |
| 法人名 | 社会福祉法人 香南会 |
| 事業所名 | グループホーム あかがね |
| 所在地 | 愛媛県新居浜市垣生5丁目8番45号 |
| 自己評価作成日 | 平成 28年 8月 1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成 28年 9月 29日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりが自分のペースで生活が送れるように、職員は言葉掛けや援助を行っている。入居者様の体力が低下しないように、ラジオ体操や歩行運動・散歩等を行いながら、気候が良い月はドライブに出かけるなど、ホーム外での活動を積極的に行っている。日中、暖かい時には、敷地内の散歩を随時行い、四季折々の草花や農作物に触れていただけるような機会を設けるようにしている。音楽療法や誕生日会等、入居者や職員全員で楽しめる機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に、法人全体の理念を踏まえ職員全員で意見を出し合い決めた独自の理念である「笑顔あふれるあたたかみのある生活を」には、利用者に笑顔で暮らしてもらうための努力を惜しまないという決意が込められている。事業所は自治会にも入り、地区の運動会や敬老会に参加、職員も地区清掃活動に参加するなど、開設して日の浅い事業所とは思えないような地域交流を行っており、地域に密着しているほか、家族会も結成されており事業所と家族との関係も良好である。また毎月、地震や風水害等様々な想定での避難訓練を繰り返し行い、災害時の職員の連携は強固なものとなっております。利用者の気持ちに寄り添い、安心して平穏な暮らしができるようケアの質のさらなる向上に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム あかがね

(ユニット名) くがね

記入者(管理者)

氏名 河村 愛

評価完了日 平成 28年 8月 1日

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|--|-------------------------------|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価) 地域密着型サービスとしての役割を盛り込み理念を構築している。また管理者、職員は入居者様が住み慣れた地域で、穏やかに安心して生活を継続して送れるよう、日々の介護現場や職員研修・ミーティング等で話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 「笑顔あふれるあたたかみのある生活を」の理念を基本に行動目標を掲げている。その一つに「地域に根を張り親しまれる我が家を目指します」とある。利用者も今ではすっかり事業所を我が家と思い日々生活している。職員は、笑顔を絶やすことなく、温かみのあるサービスに努めている。</p> | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価) 自治会に入会し、地域の活動（地域の一斉清掃や河川の草刈りなど）や行事（地区の運動会）に積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) 開設後1年半程で日が浅い割には、利用者と職員が近くの小学校の運動会や敬老会に出席したり、草刈りや清掃活動に参加し汗を流すなど地域貢献にも寄与している。また芋炊きを行い近隣住民を招待するなど、地域との関わりを積極的に持つことができている。</p> | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価) 開所して1年が経過しましたが、認知症高齢者の理解を深める活動はあまり出来ていない状態である。今後は、運営推進会議の場などを十分に活用し、認知症高齢者の理解や支援方法、グループホームの役割などの説明を行っていく。</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|---|-------------------------------|
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている | (自己評価) 平成28年度より、小規模特別養護老人ホームつばきと合同で運 営推進会議を行っている。運営推進会議で出た意見や検討項目に ついて職員会で報告し検討している。いただいた意見に対しては 実行できるように取り組み次の会で経過を報告している。 | |
| | | | (外部評価) 同法人の小規模特別養護老人ホーム施設長が運営推進会議の司会 をするなど連携が取れ、議題に困ることなく会議の運営もスム ーズに行われている。会議の参加者は地域関係者が多く、内容も外 部評価の報告等もあり充実している。地域でのサロン出席の誘い を受けたり、民生委員に助けられるケースがあるなど、利用者にと っても有意義な会議となっており、今後は職員の出席も考えて いる。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる | (自己評価) 3か月に1回、事業所の入居者情報を市の介護保険係に届け情報 を開示したり情報をいただいたりしている。困ったことなども相 談をしている。また、年間数回のグループホーム連絡協議会にも 参加し協力関係を築くよう取り組んでいる。 | |
| | | | (外部評価) 市担当課へは3か月に1回入退居の状況を報告し公表している。 地域包括支援センターからは月に2回介護があり、利用者の介護 相談にのってもらっており、家族は満足している。市生活福祉課 の職員が、年2回訪問の上利用者とは面談し様子を確認している。 市主催の研修会や説明会に出席し協力関係を築いている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) 法人全体で取り組みを行っている。また、今までに身体拘束を行 わなければならなかった事例は見られていない。 | |
| | | | (外部評価) 身体拘束しないケアについて、法人教育部が年間研修計画を3～ 4回組み込んでおり、全職員が交代で受講できるよう徹底してい る。玄関の施錠による利用者の弊害について、家族への理解を促 し、日中は職員の見守りの中、利用者は安心して自由に入出入りす ることができ、自宅で過ごしているような環境が保たれており満 足している。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|---|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 法人全体で取り組みを行い学んでいる。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 法人全体で取り組んでおり、職員会などを通じて学んでいる。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 入居者の申し込み時や契約時に契約書に沿った説明を行い、理解・納得していただいた上で入居していただいている。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 入居者の言葉や表情・態度からその思いや考えを察するように努め、入居者主体の運営を心かけている。また、家族会を定期的に開催し、意見交換を行い、その意見や要望を職員会やカンファレンスにて話し合い日々のケアに生かしている。市町村や家族、地域の方にも運営推進会議にも参加していただき入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。 (外部評価) 花見や敬老会などの行事と組み合わせて家族会が開かれている。家族の面会時には、日頃の利用者の姿を報告しているが、遠方の家族には、手紙と本人の写真を送り喜ばれている。また、職員の異動や退職の報告を行うなど家族の要望に応じており、意見や要望等を言いやすい環境である。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 毎月の職員会で提案・意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを積極的に図り、意見を出しやすいように心がけている。 | |
| | | | (外部評価) 職員会で職員の意見などを聞く機会を設け、気づいたことや感じていることを自由に発言してもらったり、悩みごとの相談に応じることにより、職員のストレス軽減に繋がっており、職員は安心して業務に励むことができている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務が行えるよう努めている。日々の中でも声をかけ、向上心を持って働けるよう努力している。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 新しい職員が入る際には必ず時間を取ってオリエンテーションを行い新人研修や外部の研修にも参加できるようにしている。今年度は、研修計画を立て、法人内外で行われる研修へ参加する機会を設け実施している。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会に入会する等、職員が勉強会に参加できるようにしていく。また、他のグループホームの職員と交流していけるよう機会を確保していく。 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 入居前には必ず本人と事前面接を行い、心身の状態把握や本人の思いを受容するように努めている。また、可能な場合は、家族と一緒に事業所を見学していただき、不安を少なくするように努めている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|--|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 入居前には、必ずご家族にお会いし、これまでの生活暦や申し込みに至る経緯等を聞き、困っていることや希望などを把握するように努めている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) すぐに受け入れが困難な時には市の支援センターを紹介したり他のホームや施設の紹介をするなどの対応をしている。受診が必要と思われるケースには病院の紹介も行っている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) 普段の生活の中で入居者に教えていただくことも多い。昔の風習や畑仕事など教えてもらいながら一緒に行う場面がある。折にふれ感謝の気持ちを伝え、協力しながら生活をしている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 病院受診時や面会時等に、日頃の本人の健康状態や日々の生活状況について報告し、共有することで、本人を支えていくための協力関係を築いている。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) ご本人の希望により訪問していただけるようお願いしている。入居時にはその方の暮らしてきた背景や人間関係を把握できるように努めている。また、入居後も面会時などに家人より、情報収集に努めている。 (外部評価) 今まで培ってきた人間関係や大切にしてきたこと、昔通っていた美容院等を入居時に家族から詳細に聞いており、職員全員で共有している。また近くのスーパーへの買い物や病院受診時、敬老会などで知人や近所の方に出会うこともできており、馴染みの関係が継続するよう支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|---|-------------------------------|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 入居者の人間関係に留意し食堂の席や居室の場所に配慮することでトラブルを防止している。食事中も入居者の状態を観察し時には会話のなかに入り関係が円滑になるように調整している。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 退居後も相談等、不安なことや相談がある時はいつでも来ていただけるよう話している。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。入居時やご家族の来訪時にも話を伺うようにしている。その日の表情や振る舞いに注意し観察し本人の思いをできるだけ汲み取るように心がけている。 (外部評価) 好きな歌、昔していた仕事や趣味など利用者一人ひとりにとって楽しみなことを上手に聞き出し、利用者本位のケアに繋がっている。車いすで休んでいる利用者をそっと目覚めさせてあげるさりげないことを、利用者に役割として担ってもらっており励みとなっている。また歩行訓練が苦手な利用者でも、職員の見守りにより歩行が少しずつ上達している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 今後の声かけや介護に生かすことを説明した上で入居前にご本人のこれまでの暮らし方や生活歴を本人、ご家族からできる範囲で伺っている。入居後も折にふれ話を聞いている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 入居者の癖や生活パターンを観察しどのような場面で不穏になるのかどのような声かけをしたり援助すればいいか職員間で共通認識を持つように努力している。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価) 職員が参加できる日を月に1日から2日設けモニタリング、カンファレンスを行っている。その他でも日々の申し送り等で意見を聞き反映したケアプランを作成している。また、本人・家族の意見も取り入れている。介護記録も、本人が話した言葉を記録するようにしている。 | |
| | | | (外部評価) 介護計画は家族の意見も取り入れ作成している。不眠気味の利用者は昼間の活動が多いとかえって疲れて眠れず、逆に1時間位昼寝をすると起きた後すっきりし、夜もよく眠れる場合もあるなど、利用者一人ひとりの状態に合わせて計画を見直している。個別記録には、会話を多く残すよう心がけており、全職員が把握し共有している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) 個別に食事や排泄、身体状況、日々の暮らしの様子や話していることを記録するようにしているが、結果や気づきが十分に記録へ反映ができていない。 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | (自己評価) 利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | (自己評価) 傾聴ボランティアの受け入れを行なっていく予定である。また、消防署等と協力しながら、総合避難訓練や救命講習の受講も行っていく。市の相談員の方が2ヶ月に1階訪問し、入居者様の話を傾聴してくださっている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|--|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | (自己評価) かかりつけ医へ受診をしたり、事業所の協力医のほかご家族の意向を聞き通院の介助を行っている。また、通院については家族同行をお願いしているが、不可能な時や緊急な時は職員が付き添っている。 (外部評価) 月1回かかりつけ医を定期受診しており、往診も依頼すると対応してもらえる。また歯科についての往診も可能である。受診は基本家族付き添いによる対応であるが、家族の都合が悪い時は、職員が付き添い受診結果は必ず家族に報告し共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | (自己評価) 職員に看護職があり、体調不良時の対応や日々の健康管理を行っている。また、主治医との連絡体制ができており随時診察して頂けるようになっている。 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価) 入院時には日頃の対応の仕方や様子を情報提供し入院中は職員が様子を見に行き、回復状況の把握に努め家族とも連絡を取り合い早期退院に向け取り組んでいる。 | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価) 入居者が元気で意思表示できるうちに可能であれば重度化した場合の意向を伺う等、ご家族とも話し合いをしている。どのような場合はホームでの対応が困難か等も合わせて話をしている。 (外部評価) 開設して2年足らずのため、看取りの経験はなく現在看取りの必要な利用者もいない。家族に看取りについてアンケートを実施したところ、「自然のまままで」という意見が多い結果であった。管理者を含め職員全員が、スキルアップのため看取りに関する研修に参加し業務に生かしている。 | 法人としては、利用者や家族の意向を踏まえ事業所ができることとできないことを見極め、医師と職員が連携し、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいきたいと強く考えており期待したい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) すべての職員が救急救命法を受講できるように年間の計画を立てている。夜間帯の緊急対応については周知できている。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) マニュアルを作成し年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。地域（消防団）の方との話しあいを行い、火災や水害等の災害時の避難についての協力体制が築けるよう取り組んでいる。 (外部評価) いざという時に慌てず確実に避難できるよう、毎月、火災、地震、風水害のどれか1つをテーマに訓練している。9月には地域の訓練に参加するなど消防署との連携は取れている。災害時、事業所として避難の受け入れ体制も整っているほか、水、ごはん、おかずや巻くと暖かいアルミ製の毛布代用品も用意しており万全である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 職員会が中心となってしまっているが、認知症高齢者に対しての言葉掛けや態度などを自分自身の振り返りの時間を設けるようにしている。 (外部評価) 方言は優しいつもりでも厳しく伝わっていないかなど、さりげない声かけの中にも敬意を払う大切さを管理者は常に考えている。利用者自身の心が落ち着いている時を待って、話をゆっくり丁寧に聞いており、尊厳を第一に考えて支援しており、信頼関係をより一層深めている。法人で年2回人権や尊厳についての研修があり、出席できる職員は必ず出席しており、できない職員には管理者が資料を渡し説明している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢を与える声かけを行うよう気をつけている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 事業所の一日の流れはあるが入居者の個々のペースを大切にし職員が合わせるように心がけている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 意思決定できる入居者に対しては洋服を選ぶことや髪型等できるだけ本人の意思を確認し決めるようにしている。希望の理美容院のある方に対してはご家族に協力いただき希望に沿っている。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 入居者と共に畑で作った作物を一緒に調理して食べたり一緒に食事の準備や後片づけをしたりしている。 (外部評価) 献立は管理栄養士が立てており、隔月の誕生会には食べたいものを聞き特別メニューにしている。畑で取れた玉ねぎ、じゃがいも、カボチャ、大根、さつまいもなどを食材として調理し提供している。利用者と近くのスーパーへ好きなおやつを買いに行ったり、食器は自宅の使い慣れたものにしており利用者の食も進み楽しみとなっている。片付け等の手伝いをする利用者もおり、できる人ができる時に手伝っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 管理栄養士の献立によりバランスのとれた食事を提供している。水分量も確保出来るように度々勧め水分摂取量の少ない方に対しては水分量のチェックを行い必要量の確保に努めている。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後口腔ケアへの声かけ準備を行い促している。夕食後の口腔ケアに関しては1対1で付き添い念入りに行っている。週に1回義歯の消毒を行っている。今年から言語聴覚士の訪問もあり、口腔ケアや嚥下状態、姿勢について等相談し、職員全体で統一したケアに取り組んでいる。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|---|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) 排泄チェック表を利用し排泄への声かけや誘導を行いトイレでの排泄を促している。また、できるだけおむつや紙パンツに頼らないようにしている。排泄パターンを把握することにより時間帯によってパットの大きさを変えたりしている。 (外部評価) トイレでの排泄を基本に、利用者の生活リズムに沿い自立に向けた支援に努めている。職員は利用者の排泄パターンを把握しており、タイミングを見計らい声かけをするなど適切な支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 体操、散歩、食事など気をつけ、出来るだけ自然排便できるように取り組んでいる。緩下剤も看護師に相談し、その使用を最低限にできるように排泄表でチェックしている。 | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 毎日入浴できる対応はしている。午後より入浴される方が多くほとんど午後から入浴している。 (外部評価) 利用者に合わせて時間帯、入浴時間、風呂の温度などを変えており、心地よく安心して入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、職員の声かけのタイミングをずらしたり、職員を代えるなど工夫し楽しんでもらえるよう努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) 日中活動的に過ごしてもらうことにより生活のリズムを整え夜間自然に眠れるように支援している。居室で横になる時間もとれている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 全職員が把握できるように全員が与薬時に見ることができる場所に明記している。職員必ず2人確認で服薬支援をしている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 食事の後片付けや畑仕事、洗濯物、掃除などそれぞれの入居者が好む仕事を把握し、その都度お願いし感謝の言葉を伝えている。畑仕事が好きな入居者に対しては次は何を作るのか何が必要か相談している。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 天候のよい日は日常的に散歩やドライブ等に出かけるようにしている。年に数回は家族と一緒に弁当を食べたり花見見学に出かけたりしている。 (外部評価) 観光施設に行ったり、近くの人に桜などを見に行くなど楽しんでいる。天気が悪く外出できない時には、歌、折り紙や塗り絵をしたり、歩くことが好きな利用者はホールの廊下を歩き来したりして過している。近くへ散歩に出かけた時は近所の方と挨拶を交わし会話するなど交流もできるため、なるべく外出できるよう用事がある時は利用者と職員と一緒に出かけている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 入居者がこづかいを持つことはなく買い物をして職員が代行して支払っている。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 入居者からの希望があれば電話できるように家族にも了解を得て常識的な時間を選び電話の支援をしている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 季節ごとの飾りをしたり毎食事時にご飯を炊くなど五感を刺激できるように工夫をしている。 (外部評価) 明るく広く、またキッチンで調理されるいい匂いや心地よい音を聞くことができるため、利用者は共有空間で過ごす時間が長く、幸せが感じられる。に満ち溢れている。掃除も行き届いており、足元もすっきり必要なもの以外置かれていないため気持ちがよく、利用者が安心して行き来できるよう安全を確保している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | (自己評価) 気の合う入居者同士が指定席で話をする場面がみられる。ソファで新聞を読んだり、自然に一人になる時間が持てている。 | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 家族に協力いただき少しづつ家具が増えているがまだまだその人らしい居室になっているとは言えない。 (外部評価) 近所の住民、知人や家族の訪問時には、利用者は居室で過ごしており、横になって休みたい時にはゆっくり落ち着いてくつろぐことができている。家族の協力により仏壇やタンスなど、お気に入りのものを持ち込むことができ、居心地よく過せる空間となっている。地震を想定し、タンスなどが倒れないような工夫が見られ、災害対策も万全であり安心である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | (自己評価) 手すりや段差のない環境を作り、安全な対応を行っている。また、トイレの位置や居室の場所がわからないときは、貼り紙や常時の声掛けを行い場所の習得に努めている。 | |

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|-------------------|
| 事業所番号 | 3890500436 |
| 法人名 | 社会福祉法人 香南会 |
| 事業所名 | グループホーム あかがね |
| 所在地 | 愛媛県新居浜市垣生5丁目8番45号 |
| 自己評価作成日 | 平成 28年 8月 1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成 28年 9月 29日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりが自分のペースで生活が送れるように、職員は言葉掛けや援助を行っている。入居者様の体力が低下しないように、ラジオ体操や歩行運動・散歩等を行いながら、気候が良い月はドライブに出かけるなど、ホーム外での活動を積極的に行っている。日中、暖かい時には、敷地内の散歩を随時行い、四季折々の草花や農作物に触れていただけるような機会を設けるようにしている。音楽療法や誕生日会等、入居者や職員全員で楽しめる機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目を迎えた事業所は、開設時に、法人全体の理念を踏まえ職員全員で意見を出し合い決めた独自の理念である「笑顔あふれるあたたかみのある生活を」には、利用者に笑顔で暮らしてもらうための努力を惜しまないという決意が込められている。事業所は自治会にも入り、地区の運動会や敬老会に参加、職員も地区清掃活動に参加するなど、開設して日の浅い事業所とは思えないような地域交流を行っており、地域に密着しているほか、家族会も結成されており事業所と家族との関係も良好である。また、毎月、地震、風水害等様々な想定での避難訓練を繰り返しおり、災害時の職員の連携は強固なものとなっており心強い。利用者の気持ちに寄り添い、安心して平穏な暮らしができるようケアの質のさらなる向上に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム あかがね

(ユニット名) しろがね

記入者(管理者)
氏名 青野 光輝

評価完了日 平成 28年 8月 1日

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|---|-------------------------------|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | (自己評価) 地域密着型サービスとしての役割を盛り込み理念を構築している。また管理者、職員は入居者が住み慣れた地域で、穏やかに安心して生活を継続して送れるよう、日々の介護現場や職員研修・ミーティング等で話し合いを行っている。 | |
| | | | (外部評価) 「笑顔あふれるあたたかみのある生活を」の理念を基本に行動目標を掲げている。その一つに「地域に根を張り親しまれる我が家を目指します」とある。利用者も今ではすっかり事業所を我が家と思い日々生活している。職員は、笑顔を絶やすことなく、温かみのあるサービスに努めている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | (自己評価) 自治会に入会し、地域の活動（地域の一斉清掃や河川の草刈りなど）や行事（地区の運動会）に積極的に参加している。 | |
| | | | (外部評価) 開設後1年半程で日が浅い割には、利用者と職員が近くの小学校の運動会や敬老会に出席したり、草刈りや清掃活動に参加し汗を流すなど地域貢献にも寄与している。また芋炊きを行い近隣住民を招待するなど、地域との関わりを積極的に持つことができている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | (自己評価) 開所したばかりなので、認知症高齢者の理解を深める活動はあまり出来ていない状態である。今後は、運営推進会議の場などを十分に活用し、認知症高齢者の理解や支援方法、グループホームの役割などの説明を行っていく。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている | (自己評価) 平成28年度より、小規模特別養護老人ホームつばきと合同で 運営推進会議を行っている。運営推進会議で出た意見や検討項 目について職員会で報告し検討している。いただいた意見に対 しては実行できるように取り組み次の会で経過を報告してい る。 | |
| | | | (外部評価) 同法人の小規模特別養護老人ホーム施設長が運営推進会議の司 会をするなど連携が取れ、議題に困ることなく会議の運営もス ムーズに行われている。会議の参加者は地域関係者が多く、内 容も外部評価の報告等もあり充実している。地域でのサロン出 席の誘いを受けたり、民生委員に助けられるケースがあるな ど、利用者にとっても有意義な会議となっており、今後は職員 の出席も考えている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう 取り組んでいる | (自己評価) 3か月に1回、事業所の入居者情報を市の介護保険係に届け情 報を開示したり情報をいただいたりしている。困ったことなど も相談をしている。また、年間数回のグループホーム連絡協議 会にも参加し協力関係を築くよう取り組んでいる。 | |
| | | | (外部評価) 市担当課へは3か月に1回入退居の状況を報告し公表してい る。地域包括支援センターからは月に2回介護があり、利用者 の介護相談にのってもらっており、家族は満足している。市生 活福祉課の職員が、年2回訪問の上利用者とは面談し様子を確認 している。市主催の研修会や説明会に出席し協力関係を築いて いる。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) 法人全体で取り組みを行っている。また、今までに身体拘束を 行わなければならなかった事例は見られていない。 | |
| | | | (外部評価) 身体拘束しないケアについて、法人教育部が年間研修計画を3 ～4回組み込んでおり、全職員が交代で受講できるよう徹底し ている。玄関の施錠による利用者の弊害について、家族への理 解を促し、日中は職員の見守りの中、利用者は安心して自由 に出入りすることができ、自宅で過ごしているような環境が保た れており満足している。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 法人全体で取り組みを行い学んでいる。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 法人全体で取り組んでおり、職員会などを通じて学んでいる。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 入居者の申し込み時や契約時に契約書に沿った説明を行い、理解・納得していただいた上で入居していただいている。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 入居者の言葉や表情・態度からその思いや考えを察するように努め、入居者主体の運営を心かけている。また、家族会を定期的開催し、意見交換を行い、その意見や要望を職員会やカンファレンスにて話し合い日々のケアに生かしている。市町村や家族、地域の方にも運営推進会議にも参加していただき入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。 (外部評価) 花見や敬老会などの行事と組み合わせて家族会が開かれている。家族の面会時には、日頃の利用者の姿を報告しているが、遠方の家族には、手紙と本人の写真を送り喜ばれている。また、職員の異動や退職の報告を行うなど家族の要望に応じており、意見や要望等を言いやすい環境である。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------|------|--|--|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 毎月の職員会で提案・意見を聞いている。また、日頃からコミュニケーションを積極的に図り、意見を出しやすいように心がけている。 (外部評価) 職員会で職員の意見などを聞く機会を設け、気づいたことや感じていることを自由に発言してもらったり、悩みごとの相談に応じることにより、職員のストレス軽減に繋がっており、職員は安心して業務に励むことができている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務が行えるよう努めている。日々の中でも声をかけ、向上心を持って働けるよう努力している。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 新しい職員が入る際には必ず時間を取ってオリエンテーションを行い新人研修や外部の研修にも参加できるようにしている。今年度は、研修計画を立て、法人内外で行われる研修へ参加する機会を設け実施している。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) 愛媛県のグループホーム連絡協議会に入会する等、職員が勉強会に参加できるようにしていく。また、他のグループホームの職員と交流していけるよう機会を確保していく。 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 入居前には必ず本人と事前面接を行い、心身の状態把握や本人の思いを受容するように努めている。また、可能な場合は、家族と一緒に事業所を見学していただき、不安を少なくするように努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 入居前には、必ずご家族にお会いし、これまでの生活暦や申し込みに至る経緯等を聞き、困っていることや希望などを把握するように努めている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) すぐに受け入れが困難な時には市の支援センターを紹介したり他のホームや施設の紹介をするなどの対応をしている。受診が必要と思われるケースには病院の紹介も行っている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) 普段の生活の中で入居者に教えていただくことも多い。昔の風習や畑仕事など教えてもらいながら一緒に行う場面がある。折にふれ感謝の気持ちを伝え、協力しながら生活をしている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 病院受診時や面会時等に、日頃の本人の健康状態や日々の生活状況について報告し、共有することで、本人を支えていくための協力関係を築いている。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) ご本人の希望により訪問していただけるようお願いしている。入居時にはその方の暮らしてきた背景や人間関係を把握できるように努めている。また、入居後も面会時などに家人より、情報収集に努めている。 (外部評価) 今まで培ってきた人間関係や大切にしてきたこと、普通っていた美容院等を入居時に家族から詳細に聞いており、職員全員で共有している。また近くのスーパーへの買い物や病院受診時、敬老会などで知人や近所の方に出会うこともできており、馴染みの関係が継続するよう支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|---|-------------------------------|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 入居者の人間関係に留意し食堂の席や居室の場所に配慮することでトラブルを防止している。食事中も入居者の状態を観察し時には会話のなかに入り関係が円滑になるように調整している。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 退居後も相談等、不安なことや相談がある時はいつでも来ていただけるよう話している。 | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 毎日の会話の中で本人の思いを把握するように努めている。入居時やご家族の来訪時にも話を伺うようにしている。その日の表情や振る舞いに注意し観察し本人の思いをできるだけ汲み取るように心がけている。 (外部評価) 好きな歌、昔していた仕事や趣味など利用者一人ひとりにとって楽しみなことを上手に聞き出し、利用者本位のケアに繋げている。車いすで休んでいる利用者をそっと目覚めさせてあげるさりげないことを、利用者役割として担ってもらっており励みとなっている。また歩行訓練が苦手な利用者でも、職員の見守りにより歩行が少しずつ上達している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 今後の声かけや介護に生かすことを説明した上で入居前にご本人のこれまでの暮らし方や生活歴を本人、ご家族からできる範囲で伺っている。入居後も折にふれ話を聞いている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) 入居者の癖や生活パターンを観察しどのような場面で不穏になるのかどのような声かけをしたり援助すればいいか職員間で共通認識を持つように努力している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価) 職員が参加できる日を月に1日から2日設けモニタリング、カンファレンスを行っている。その他でも日々の申し送り等で意見を聞き反映したケアプランを作成している。また、本人・家族の意見も取り入れている。介護記録も、本人が話した言葉を記録するようにしている。 (外部評価) 介護計画は家族の意見も取り入れ作成している。不眠気味の利用者は昼間の活動が多いとかえって疲れて眠れず、逆に1時間位昼寝をすると起きた後すっきりし、夜もよく眠れる場合もあるなど、利用者一人ひとりの状態に合わせて計画を見直している。個別記録には、会話を多く残すよう心がけており、全職員が把握し共有している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) 個別に食事や排泄、身体状況、日々の暮らしの様子や話していることを記録するようにしているが、結果や気づきが十分に記録へ反映ができていない。 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | (自己評価) 利用者・家族のその時の状況に応じ、対応をしている。介護計画の見直しを行い、その人がその人らしい生活ができるよう、また家族が安心して就労や生活が過ごせるよう努めている。 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | (自己評価) 傾聴ボラの受け入れを行なっていく予定である。また、消防署等と協力しながら、総合避難訓練や救命講習の受講も行っていく。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|--|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | (自己評価) かかりつけ医へ受診をしたり、事業所の協力医のほかご家族の 意向を聞き通院の介助を行っている。また、通院については家 族同行をお願いしているが、不可能な時や緊急な時は職員が付 き添っている。 (外部評価) 月1回かかりつけ医を定期受診しており、往診も依頼すると対 応してもらえる。また歯科についての往診も可能である。受診 は基本家族付き添いによる対応であるが、家族の都合が悪い時 は、職員が付き添い受診結果は必ず家族に報告し共有してい る。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している | (自己評価) 職員に看護職があり、体調不良時の対応や日々の健康管理を 行っている。また、主治医との連絡体制ができており随時診察 して頂けるようになっている。 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価) 入院時には日頃の対応の仕方や様子を情報提供し入院中は職員 が様子を見に行き、回復状況の把握に努め家族とも連絡を取り 合い早期退院に向け取り組んでいる。 | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価) 入居者が元気で意思表示できるうちに可能であれば重度化した 場合の意向を伺う等、ご家族とも話し合いをしている。どのよ うな場合はホームでの対応が困難か等も合わせて話をしてい る。 (外部評価) 開設して2年足らずのため、看取りの経験はなく現在看取りの 必要な利用者もいない。家族に看取りについてアンケートを実 施したところ、「自然のまままで」という意見が多い結果であつ た。管理者を含め職員全員が、スキルアップのため看取りに関 する研修に参加し業務に生かしている。 | 法人としては、利用者や家族の意向を踏まえ事業所が できることとできないことを見極め、医師と職員が連 携し、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組ん でいきたいと強く考えており期待したい。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|---|-------------------------------|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) すべての職員が救急救命法を受講できるように年間の計画を立てている。夜間帯の緊急対応については周知できている。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) マニュアルを作成し年2回入居者も参加した避難訓練を行っている。地域（消防団）の方との話しあいを行い、火災や水害等の災害時の避難についての協力体制が築けるよう取り組んでいる。 (外部評価) いざという時に慌てず確実に避難できるよう、毎月、火災、地震、風水害のどれか1つをテーマに訓練している。9月には地域の訓練に参加するなど消防署との連携は取れている。災害時、事業所として避難の受け入れ体制も整っているほか、水、ごはん、おかずや巻くと暖かいアルミ製の毛布代用品も用意しており万全である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) 職員会が中心となってしまっているが、認知症高齢者に対しての言葉掛けや態度などを自分自身の振り返りの時間を設けるようにしている。 (外部評価) 方言は優しいつもりでも厳しく伝わっていないかなど、さりげない声かけの中にも敬意を払う大切さを管理者は常に考えている。利用者自身の心が落ち着いている時を待って、話をゆっくり丁寧に聞いており、尊厳を第一に考えて支援しており、信頼関係をより一層深めている。法人で年2回人権や尊厳についての研修があり、出席できる職員は必ず出席しており、できない職員には管理者が資料を渡し説明している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢を与える声かけを行うよう気をつけている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|--|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 事業所の一日の流れはあるが入居者の個々のペースを大切にし職員が合わせるように心がけている。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 意思決定できる入居者に対しては洋服を選ぶことや髪型等できるだけ本人の意思を確認し決めるようにしている。希望の理美容院のある方に対してはご家族に協力いただき希望に沿っている。 | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 入居者と共に畑で作った作物と一緒に調理して食べたり一緒に食事の準備や後片づけをしたりしている。 (外部評価) 献立は管理栄養士が立てており、隔月の誕生会には食べたいものを聞き特別メニューにしている。畑で取れた玉ねぎ、じゃがいも、カボチャ、大根、さつま芋などを食材として調理し提供している。利用者と近くのスーパーへ好きなおやつを買いに行ったり、食器は自宅の使い慣れたものにしており利用者の食も進み楽しみとなっている。片付け等の手伝いをする利用者もおり、できる人ができる時に手伝っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 管理栄養士の献立によりバランスのとれた食事を提供している。水分量も確保出来るように度々勧め水分摂取量の少ない方に対しては水分量のチェックを行い必要量の確保に努めている。 | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後口腔ケアへの声かけ準備を行い促している。夕食後の口腔ケアに関しては1対1で付き添い念入りに行っている。週に1回義歯の消毒を行っている。今年から言語聴覚士の訪問もあり、口腔ケアや嚥下状態、姿勢について等相談し、職員全体で統一したケアに取り組んでいる。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) 排泄チェック表を利用し排泄への声かけや誘導を行いトイレでの排泄を促している。また、できるだけおむつや紙パンツに頼らないようにしている。排泄パターンを把握することにより時間帯によってパットの大きさを変えたりしている。 | |
| | | | (外部評価) トイレでの排泄を基本に、利用者の生活リズムに沿い自立に向けた支援に努めている。職員は利用者の排泄パターンを把握しており、タイミングを見計らい声かけをするなど適切な支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 体操、散歩、食事など気をつけ、出来るだけ自然排便できるように取り組んでいる。緩下剤も看護師に相談し、その使用を最低限にできるように排泄表でチェックしている。 | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 毎日入浴できる対応はしている。午後より入浴される方が多くほとんど午後から入浴している。 | |
| | | | (外部評価) 利用者に合わせて時間帯、入浴時間、風呂の温度などを変えており、心地よく安心して入浴できるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、職員の声かけのタイミングをずらしたり、職員を代えるなど工夫し楽しんでもらえるよう努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) 日中活動的に過ごしてもらうことにより生活のリズムを整え夜間自然に眠れるように支援している。居室で横になる時間もとれている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) 全職員が把握できるように全員が与薬時に見ることができる場所に明記している。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 食事の後片付けや畑仕事、洗濯物、掃除などそれぞれの入居者が好む仕事を把握し、その都度お願いし感謝の言葉を伝えている。畑仕事が好きな入居者に対しては次は何を作るのか何が必要か相談している。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 天候のよい日は日常的に散歩やドライブ等に出かけるようにしている。年に数回は家族と一緒に弁当を食べたり花見見学に出かけたりしている。 (外部評価) 観光施設に行ったり、近くの山に桜などを見に行くなど楽しんでいる。天気が悪く外出できない時には、歌、折り紙や塗り絵をしたり、歩くことが好きな利用者はホールの廊下を歩き来したりして過している。近くへ散歩に出かけた時は近所の方と挨拶を交わし会話するなど交流もできるため、なるべく外出できるよう用事がある時は利用者と職員が一緒に出かけている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 入居者がこづかいを持つことはなく買い物をして職員が代行して支払っている。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 入居者からの希望があれば電話できるように家族にも了解を得て常識的な時間を選び電話の支援をしている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 季節ごとの飾りをしたり毎食事時にご飯を炊くなど五感を刺激できるように工夫をしている。 | |
| | | | (外部評価) 明るく広く、またキッチンで調理されるいい匂いや心地よい音を聞くことができるため、利用者は共有空間で過ごす時間が長く、幸せが感じられる。に満ち溢れている。掃除も行き届いており、足元もすっきり必要なもの以外置かれていないため気持ちがよく、利用者が安心して行き来できるよう安全を確保している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | (自己評価) 気の合う入居者同士が指定席で話をする場面がみられる。ソファで新聞を読んだり、自然に一人になる時間が持てている。 | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 家族に協力いただき少しづつ家具が増えているがまだまだその人らしい居室になっているとは言えない。 | |
| | | | (外部評価) 近所の住民、知人や家族の訪問時には、利用者は居室で過ごし、横になって休みたい時にはゆっくり落ち着いてくつろぐことができている。家族の協力により仏壇やタンスなど、お気に入りのものを持ち込むことができ、居心地よく過せる空間となっている。地震を想定し、タンスなどが倒れないような工夫が見られ、災害対策も万全であり安心である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | (自己評価) 手すりや段差のない環境を作り、安全な対応を行っている。また、トイレの位置や居室の場所がわからないときは、貼り紙や常時の声掛けを行い場所の習得に努めている。 | |